

キックオフシンポジウム「山岳科学共同学位プログラムの開設に向けて」開催報告

去る6月27日(土)午後、東京都中央区のベルサール八重洲において、「山岳科学共同学位プログラムの開設に向けて ～地球圏・生物圏・人間圏の変化に適応する山岳環境の理解と課題解決～」と題するキックオフシンポジウムが開催されました。この集まりは、平成27年度より準備をスタートしている6大学連携による新規の教育プログラム「山岳科学学位プログラム」の実現に向け企画されたものです。新たな教育プログラムの構築を目指し、連携6大学、関係する官公庁、企業の皆さまをはじめ、総勢79名の方々にご参集いただき、活発な議論がなされ、みのり多く、盛況の裡に幕を閉じました。

平成27年度文部科学省特別経費の採択を受け、筑波大学が中心となり、中部山岳域にフィールド拠点をもつ筑波大学、富山大学、信州大学、山梨大学、静岡大学の5大学に、オブザーバーとして岐阜大学を加えた「6大学連携」による共同の教育プログラムの検討が進んでいます。このプログラムの目的は、様々な災害が起きている中部山岳における環境変動の分野横断的観測と教育を充実しながら、地球圏-生物圏-人間圏の相互作用を解明することにより、山岳域における地域が直面する複合的な環境問題の解決に資する人材育成を行うことを目指そうというものです。この6大学連携による共同の教育プログラムを「山岳科学共同学位プログラム」と命名し、連携大学間によるカリキュラム等の協議を、平成27年度から始めました。

本キックオフシンポジウムでは、来賓11名をお迎えし、各大学及び関係官公庁、企業の皆さまに一堂にお集まり頂き、取組構想と意義を広く社会に伝えるとともに、今後の山岳科学共同学位プログラムの構築に向けた方向性に関してパネルディスカッションによる活発な意見交換が行われました。

本共同学位プログラムが実現すれば、今後、多様なフィールド実習等の経験により複合的な自然災害・環境問題に対応できる能力の育成と、大学・フィールド間の広域ネットワークが構築され、これまでにない分野横断による調査研究の発展が期待でき、様々な場面に対応できる人材の育成に寄与できると考えます。



永田恭介学長による開会挨拶



磯谷桂介 文化庁長官官房審議官による来賓挨拶



森本浩一 内閣府政策統括官（科学技術・イノベーション担当）による来賓挨拶



浅島誠 日本学術振興会理事・筑波大学 TARA センター長による来賓挨拶



山沢清人 信州大学学長による連携大学挨拶



東郷敬一郎 静岡大学企画戦略担当理事による連携大学挨拶



堀哲夫 山梨大学教学担当理事による連携大学挨拶



沼田治室長による学位プログラムの説明



徳永保教授による基調講演



パネルディスカッションの様子



松本宏教授による閉会挨拶



会場の様子